

第3回 三浦市学校教育ビジョン地域協議会（三崎地区）会議録

○日 時 令和2年11月24日（火） 18時55分～20時04分

○場 所 三浦市民交流センター 研修室

○次 第

1 開 会

2 議 事

(1) 審議事項

議 案8 第2回三浦市学校教育ビジョン地域協議会（三崎地区）会議録の承認に
ついて

(2) 報告事項

報告事項2 三浦市学校教育ビジョンに対する提案書について

3 事務連絡

4 閉 会

○出席委員（11名）

座長	後藤 克幸	座長職務代理者	札内 尚	委員	香山 賢一郎
委員	青木 広美	委員	内藤 幸成	委員	小川 哲男
委員	杉田 理佳	委員	出口 悟	委員	山田 光雄
委員	柴谷 肇	委員	伊藤 修也		

○事務局（4名）

君島 篤	教育部長	増井 直樹	教育総務課長
矢尾板 昌克	政策部政策課長	長島 正紀	教育総務課 GL

◇座長 皆さんこんばんは。それでは三崎地区の第3回三浦市学校教育ビジョン地域協議会を開催いたします。

早速ですが議事に入ります。議案第8号「第2回三浦市学校教育ビジョン地域協議会（三崎地区）会議録の承認について」を議題といたします。

会議録につきましてはすでにお手元に送付してございますが、この内容について、ご質問・ご意見がございましたらお願いいたします。

何かございますか。

（特に発言なし）

◇座長 それではお諮りします。「議案第8号 第2回三浦市学校教育ビジョン地域協議会（三崎地区）会議録の承認について」は原案のとおりとすることにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

ありがとうございます。ご異議なしと認め、そのように決定いたします。

◇座長 続きまして、報告事項に入ります。

三浦まちづくりの会より提出されました「三浦市学校教育ビジョンに対する提案書について」事務局より報告をお願いします。

◇事務局 ご報告いたします。

11月12日に三浦市学校教育ビジョンに関する検討会を何回か開催している「三浦まちづくりの会」の会長外、数人の方が三浦市教育委員会に来庁されました。そして、三浦市学校教育ビジョンに関する提案書をいただきました。

皆さんのお手元には資料のコピーをお届けしていると思います。

色々のご検討いただいた結果、提案というよりは、ほぼ要望というかたちのものになっております。その内容について疑問点、ご意見などをいただきましたため、三浦市教育委員会としての考えを委員の皆様はこの場でご報告をいたしたいと思っております。こちらについて、ご意見などありましたらご協議、ご質問をいただきたいと思っております。

では、内容について最初に主な不安と疑問に対して少々時間を取り、一つ一つ、三浦市教育委員会としての考えをお伝えしていきたいと思っております。

まず、子どもの通学経路の問題です。安全に通学できるか非常に心配というお話です。確かにこの問題は三浦市教育委員会としても憂慮すべき課題であると捉えております。

三崎地区の距離の現状をお伝えします。文部科学省では直線距離で4キロメートル以内が概ね小学校の通学範囲である見解を示しています。三崎地区の三つの小学校を中心とする直線距離4キロメートル以内に三崎地区の全ての学区が入っています。どこの小

学校に統合したとしても4キロメートル以内です。しかし、直線距離と通学距離は違う話です。そこで各小学校に統合されたことを考え、各地点からの車の通れる道路を使用した場合、どれくらいの距離があるかをインターネットで調べてみました。一番遠かった地点で名向小学校と城ヶ島の西側の端間で約4.3キロメートルの道のりです。その他の地点である、通り矢、歌舞島、宮川湾、浜諸磯、高山、それから引橋から距離を計測しましたが、道のりは4キロメートル以内には入っています。ただ、小学生の足を考慮すると、現在の小学校がどこかの小学校に統合された場合、遠くなってしまうため、何らかの手立てを市として考えていく必要があると前回の地域協議会でもお知らせしたとおりです。データを見ると1キロメートル少々、現在の小学校から遠くなってしまう場所がでてしまいます。子どもの足のこと考えると、通学時間は1キロメートルあたり15分程度増になると考えています。1、2学年の低学年にとっては長い道のりであると思っており、安全対策、通学対策につきましては、この場で必ずこのことを行うと言及することができないのは不本意ですが、市として取り組んでいくべきと考えています。

次に教育の質が低下する恐れがあると書かれています。こちらについて、小学校全体で教員の数が減るためきめ細やかな教育ができなくなり、教育の質が低下する恐れがあると書かれています。小学校全体の教員の数で図れるものではないと三浦市教育委員会では考えています。三浦市学校教育ビジョンの案である小学校の統合がなされた場合の1クラスの人数でいきますと、約30人前後になると思われます。今、文部科学省では新型コロナウイルスの対策を含めて、現在、第2学年からは40人のクラスを想定するところを30人のクラスではどうかと検討に入っています。30人を少し超える、31人、32人のクラスが多くなりますが、現在の支援級の人数を算入しない部分でも、ほぼ30人の学級になると考えておりますので、文部科学省がいう新型コロナウイルスに有効なぐらいの人数の学級が統合後、生まれてくると思っておりますし、その人数できめ細やかな教育は十分にできるものだと三浦市教育委員会としては考えているところです。

つづきまして、児童数が多くなり、密になる可能性がある、密になる環境が増えるということです。こちらは物理的に子どもの通う人数が増えるため、密になるのが増えてしまうことは事実だと考えています。その中でも、安全な教育をするためのアイデアは欠かさず今と同じように行っていきますし、先程、申し上げた人数になりますから、それほど感染症という意味での対策が取れない、大きな小学校になってしまうわけではありません。これによってこのプロジェクトの遂行を止めてしまうような影響はないと三浦市教育委員会では考えています。ただし、新型コロナウイルスなどの感染症対策をしっかり行うことは重要だと考えています。

次に小中一貫教育についてです。小中一貫教育が施設分離型であれば限界があり、有益性があるとはいえないと書かれています。確かに施設一体型と施設分離型で行う小中一貫教育では、施設分離型の方がやりにくさが出てくるのは事実ですが、施設分離型でも成功している事例が数多くあると思っておりますし、施設分離型であってもできる教育を進めていくことは必要である、というように考えております。これによって先生方に負担がかからないようするのが前提であろうと考えています。

づつについて、不登校に効果があるとはいえないという記述です。文部科学省の「中一ギャップの真実」というリーフレットで、中一ギャップそのものを否定している記述で、

不登校を減らす効果があるとはいえないという疑問点が書かれております。このリーフレットが存在するのは事実であり、こういった記述もありますが、真意としては中学1年生になって不登校が増加してしまうという事実のそのことだけをもって、安易に捉えてはいけないという警鐘だと三浦市教育委員会は考えています。事実、中学1年生になったときの不登校の人数は小学校6年生の不登校の人数より大きく増加しています。それは三浦市でも例外ではありません。そのような状況下で、初声小学校の中学1年生になったお子さんから、中学校に知っている先生がいて安心した旨の声もいただいています。非常に大きな声だと思っています。そういった安心感を情操できる可能性があるものであり、こちらを進めて、少しでも不安がない教育を小中一貫で見えていくことができるのならば、それは三浦市教育委員会として取り組んでいくべきだと考えています。

次に小規模校のメリットを活かした教育についてです。今、異学年間の交流、他の小学校との連携等で工夫すれば課題は解決できると記載されています。その工夫は今でも十分していると考えています。そういった工夫で補える部分もあろうかと思いますが、日常的に同じ年齢の多く子どもたちとふれあえる関係というものと、何か手立てをしなければ同じ子どもたちとしかふれあえない環境は大きなギャップがあると思っています。確かに工夫をすれば課題は解決できるとしていますが、これ以上、三浦市全体の小学校が小規模化してしまうことが予想される中では、その工夫にも限界があるという考えを三浦市教育委員会は持っています。

つづきまして、若手教員の研修や育成体制を整える努力が必要と書かれています。三浦市教育委員会、校長、教頭は課題を解決するための努力を怠ってはなりませんと書いてあります。校長先生、教頭先生には、こういった努力は非常にさせていただいておりますし、全く怠っていません。そういった中でも、こちらも限界があるため環境としては学校の規模を適正化することは必要であると考えているところです。

次に子育てをするなら三浦でとなる取り組みについてです。色々な考えがあるかと思いますが、私どもとしては学校の規模を適正化することが、この取り組みであると考えています。懸念されている小さな小学校で出来ていたことが、適正規模化することによってできなくなってしまうと考えられていますが、それは今できていることを各小学校が持ち寄り、新たに統合された小学校で発揮することで、より良い小学校になっていくと考えています。また、今、培っている小規模校での取り組みは全く無駄にはならないことですので、そちらを活かした学校にしていくことが大切であると考えています。

次に教職員を増やして20人程度の学級の実現についてです。学習によっては少人数が非常に有効であることに間違いはありません。ただし、大人数でできない取り組みもございます。先程申し上げたとおり、一定規模を確保して大人数での教育を行いながら、少人数での教育を行えるような環境を整えることが有効であると考えています。先日の会議のなかでも、市費で教員の数を増やすのはどうかという提案を受けましたが、20人程度の学級を想定すると、数多くの教員を市費で確保する必要があります。その額を考えると、大変申し訳ありませんが今の三浦市の財力で、すぐに実施することは困難であると考えています。

次に学校施設について経費の削減300万円程度と記載されています。確かに約300万円の経費の削減ができるとお話ししました。しかし、こういった趣旨の発言は三浦市教

育委員会ではしていません。できたとしても 300 万円程度の経費削減で、交付税等の収入が少なくなってしまうため、経費を削減するために学校を統合する考えは毛頭ないことをお伝えしています。このように捉えられてしまい、少々悲しい部分があります。

次に学校施設の改善について、こちらはごもっともなことと思います。三浦市教育委員会ができるだけバックアップして、より良い教育環境を児童、生徒に提供できることが責務であると思っているため努力をいたします。

次に優しいまちづくりと地域の活力、防災についてです。一番目には子育てに優しいまちづくりとして、子どもたちが徒歩で通えないような小学校では市外への転出が予測されるとございます。こう考える方も0ではない部分もあるかと思えます。ただ反対に、小規模の学校に通わせたくない保護者の方から実際の声として聞いておりますし、色々な考え方があると思えます。そういったことを払拭するような学校とすることによって、転出対策や子育てに優しいまちづくりをしていくことが必要であると思っています。何よりも大切なのは学習や体験ができる学校規模を今の子どもたちに提供することであると考えています。

次に地域の活力が衰退してしまう所です。確かに学校は長い間、地域のコミュニティのなかで重要な役割を果たしてきたと思えます。随分と前になる話ですが、どこの家庭にも子どもがいる、小学生がいるという時代には、ほとんどの家庭に小学生がいて学校との接点を持っている家庭ばかりでした。それが今では少子化、核家族化が大きく進展してしまい、多くの家庭が小学校と接点を持たなくなってしまった事実がございます。そのような状況下で、学校は精神的な意味で大きな地域の支えになっていたことは事実だと考えています。ただし、教育という意味で考えると学校の本分としては適切な教育を児童・生徒に提供することであり、三浦市教育委員会の考えでは、このまま学校の小規模化が進んでしまうと、今までと同じような教育を子どもたちに提供することに危うさが出てくると考えています。まずはそちらを優先して解決すべきであり、地域のことについては三浦市として、地域コミュニティの衰退が起らないような今後の施設利用などをしっかりと全庁的に考えて、今後、結論を出していくことです。

次に地域に指定避難場所がなくなってしまうということです。学校があったため指定避難所になっています。今、学校の統合を考えておりますが指定避難場所として統合後、使用しなくなった学校を残すべきかどうかは三浦市として考えていきます。統合されると同時に指定避難場所がなくなってしまうということではありません。また避難場所としても様々な考え方があると思えますので、今後、防災担当とも協力しながら三浦市としてこちらも答えを出していきたいと考えています。

そこで提案されたことです。三崎地区と南下浦地区の小学校を1校ずつにすることで、子どもたちに「長距離通学の負担」、「教育の質が低下するおそれ」、「「密」になる環境が増える可能性」を押し付けないこととございますが、長距離通学の負担については対処を考え、教育の質が低下する恐れというのは三浦市教育委員会としてはないと考えています。密になる環境が増える可能性はありますが、しっかりと感染症対策をすることによって解消されます。一定規模の児童を確保して体系的なところはきちんと確保したうえで行っていくことが必要であると考えています。

適正規模、適正配置については色々な意見を聞いてほしいとのことです。現在、保護

者の方々には説明会を行っています。地域の方々の意見ということで地域協議会でもご意見をいただいて、しっかりと検討していく考えです。アンケートについては、ご自身のこととして捉えていただかずに回答されてしまう懸念があるため、三浦市教育委員会としては少し慎重な立場を取っています。

施設分離型の小中一貫教育についてです。弊害があり有益性があるとはいえないし、不登校に効果があるともいえず、小中一貫教育を行うために1小学校、1中学校にしないということとなっています。小中一貫教育と適正規模化というのは両輪のように一体に進めていくべきであると考えています。小中一貫教育を進めていくためだけの適正規模化ではなこともお伝えしたいと思います。

地域特性を活かした無理のない小中連携教育を推進することとございます。確かに小中連携教育については進めていくべきだと考えております。

小規模校のメリットを活かした教育についてです。異なった学年との交流や他の小学校との連携を図るなどの工夫をすることと書いてあります。こちらも現在しておりますし、十分させていただいています。

若手教員への指導力の向上をはかるためのサポートをする仕組みを作る努力をすることとなっております。こちらも現在、十分に学校ではさせていただいていると思っております。学校の本分である授業等を疎かにすることはできませんので、時間的にも今まで以上に学校にお願いして、研修に時間を割いてもらうことも難しい現状があり、そのような状況下でも十分に協力させていただいています。

きめ細やかな教育や指導を行うことができる小規模校のメリットを最大限に活かすこととなっております。現在できている小規模校での教育は統合された小学校でも、脈々と受け継がれていくことと信じており、学校ではそうしてくれると思っています。統合されて適正規模化された後も、子どもたち一人一人が主人公であることは間違いなく保証できるかと考えております。

教職員の人数を増やして20人程度の学級を実現し、新型コロナウイルス対策ときめ細やかな教育を行うこととあります。20人程度の学級の実現は市単独での実施ということになるかと思っております。先程、申し上げた文部科学省では30人程度の学級にすることを今後、目指していく検討が始められたところです。

教育予算の増額と学校施設についてです。余り効果がない経費削減を目的に教育ビジョンを強引に推し進めないことと書いてあります。教育予算の削減を目的としたものではございません。前回の地域協議会で経費削減が目的ではないことをPRするべきだというお話もありましたが、まだまだ浸透していないのかなというところです。施設の改善についてはご指摘のとおりだと思います。

まちづくりと地域の活力、防災についてです。こちらは、学校の本分を考えると児童・生徒の学習や社会的な体験を十分に適応できる規模にする必要があると考えているところです。地域のことについては今後、三浦市教育委員会だけではなく三浦市全体で対応いたします。指定避難場所についても同様に対応していく考えです。

すべては子どもたちのためにというように考えた、三浦市学校教育ビジョンを策定しました。まずは学校での学習や体験が十分に提供できる規模を三浦市教育委員会としては整えることが必要であると考えておりますので、そういった説明を今後とも続けてい

きたいと思っています。報告は以上であります。

◇座長 　ただいま事務局より報告がありました。この件につきまして、ご質問などがありましたらお願いします。

◇委員 　今、出た質問というのは、三浦まちづくりの会の人でなくても一般の人が三浦市学校教育ビジョンを見たら出てくる疑問だと思います。なぜ、これだけの疑問が出てくるのかというと、三浦市教育ビジョンというものに対する説明が足りないからだと思います。そして、今まで説明会を開催したのを見ますと、一般の人に対して3回行い、あとは保護者の人たちだけです。学校というのは、すべては子どもたちのためというならば、なおさら地域、家庭、学校の三者一体にならないところで、偏ったところに説明がされており、もっと一般市民のための説明会も必要だと思います。また、まちづくりの会が出された疑問に対し、先程、回答されたものについては当然、三浦市教育委員会で三浦市学校教育ビジョンを作っていますから、まちづくりの会の考えに対してはそのような回答になると思います。しかし、一般の人が考えたら、もう少し違った方法があるのではないかと、特に学校は教育を提供するのが本分であると述べていたが、教育ということが学ぶことだけではなくて、地域との交流などを含めて考えていくとちょっと違うのかなと思います。よって、そのような意味でいうと、説明会を増やすことや例えば地域協議会のアナウンスにしても今、配っているものを保護者以外にも対象を広げるなどして、もう少し皆さんが知れるようにすることです。

もう一つは、アンケートについては個人的な見解が中心になるという形でしたが、個人的な見解でも良いと思います。これは三浦市教育委員会だけの問題ではなくて、三浦市の問題だと思います。そうした場合には三浦市の住民がどのように思っているか、ということをしつかりと把握すべきだと思います。そして、三浦市教育委員会がアンケートについて回答が自身の立場に立っていないというならば、それなりのやり方でアンケートを取るべきだと思います。これらのことを行わないと、地域協議会があり三浦市教育委員会があり、そのなかで話し合いをし、統合になるという進み方になってしまうと思います。

◇事務局 　説明会につきましては、最初に地域に対して3回行いました。しかし、中々、お集まりいただけなかったということで、対象を絞った方がより聞いていただけるのではないかと考え、今回は小学校、幼稚園、保育園の方を対象にして進めております。

三浦市学校教育ビジョンの考えが浸透していかないことは事実だと思っています。今、三浦市教育委員会としては精一杯行っているつもりですが、こういった形であれば皆さんへもう少し浸透させることができるか、努力したいと考えています。

◇委員 　1回目の南下浦地区地域協議会の会議録のなかで、無関心だから参加者が少ないという項目がありました。無関心から関心を持たせる状態にしないと良くないと思います。そのために、あらゆる手段を駆使して、それでも結果はこの程度かという形ではないでしょうか。

◇事務局 色々な議論がされたうえで、私どもが必要と考えている適正規模にするために学校の統合が必要だと思っています。繰り返しになりますが、そういった努力は今後も続けていきたいと考えています。

◇座長 他にございますか。

◇委員 4点聞かせてください。一番目に安全に通学という部分で、何らかの手立てが必要というお話でしたが、具体的に何らかの手立てはどのようなことを考えていますか。

二番目に現在、勤務されている先生は3校が1校に統合後、余剰になってしまう先生はいますか。

それから施設利用として使用しなければならない学校がでできますよね。統合後、学校ではなくなった施設をどのように利用、使用方法など具体的な話はできていますか。

最後に小中連携の話です。三浦市は幼・保・小の連携を大切に、動いてくれていますが、小中連携のなかに幼稚園や保育園が含まれる余地はありますか。

◇事務局 まずは通学の話です。前回の地域協議会でのご質問で重なってしまう部分があるかとはございますが、一つ目として通学の足となる普通のバスの増便などを行い、適切な通学時間帯に運行することが考えられます。

◇委員 それは京浜急行バスですか。

◇事務局 そうです。それとは違うバスである、スクールバスとしての専用の運行ができないのかというのが二つ目です。また、スクールバス専用ではなくても、それに代わるような手段を三浦市として提供できないかと考えています。そのような時には費用の問題は一緒に考えていくべきです。その他は送り迎えの多い地域であるため、送り迎えのしやすさを学校として確保できるような方策を取ることです。あとは、地域の協力が得られるかなどですが、まだ具体的な話ではありません。これらのことを総合的に考慮したうえで、できる手立てを取っていくということです。

◇委員 そのことについて話を進めているのですか、全然進めていないのですか。

◇事務局 京浜急行バスに最初のお話までしました。そこでは今後、ご相談に応じてもらいたい旨を伝えました。統合により、どこの小学校を活用するかが決まらなると具体的な話を京浜急行バスとできないため、それ以上の話を進めていません。

大まかな話はできますが、具体的な話になりますと京浜急行バス側も費用、利益のことを考えなければなりません。そのため、とんとん拍子で話が進まないことがあります。まずは最初の話はしました。

施設利用については、こちらもどこの小学校を利用することになるか決まったときに、活用方法を考えることになると思います。この件についても、費用や人員、時間の話に

なってきますので具体的な話が進んだ段階で、進展するものだと考えています。

幼稚園、保育園との連携については、今後も十分に行っていくことが必要です。

◇委員 統合による先生の処遇についてもお願いします。

◇事務局 先生をいかに守っていくかというご指摘、ご質問だと思います。一部希望的な部分もございます。まず、令和7年度までこれまでもお話してきましたが、クラス数の減少があります。それまでの間に減少する先生方の人数と退職になられる先生方の人数がベースになります。令和7年にこのプロジェクトを実施したときに、令和6年度末の退職者の人数の問題があります。一つ不鮮明になっていることは公務員の定年の延長の問題がありまして、三浦市学校教育ビジョンを作成していた際に、シュミュレーションを少々しましたが、おそらく定年退職との関係があるため、あまり意味がないものになってしまうのかなと思っています。そして、最も大きなインパクトは1校に基本的に1人しか残らない役職の先生方で具体的には管理職である校長、教頭です。このことは確実に令和7年度にこのプロジェクトが始まるとすると、令和6年度と比べたときに小学校7校が2校になるため、一度に10人分のポストがなくなります。また、養護教諭というポストがあります。ご存知の方もいらっしゃるかと思いますが、旧三崎中学校と旧上原中学校を統合した際に、急激に変わらないようにという措置で先生の数を多めに配置してくれる措置が取られました。養護教諭については今もそれが継続している、その部分については若干あるかなと思います。一般の先生方も少しずつ減る分と歳を重ねた先生の減る分で、あとはプラスアルファの人数があるかもしれませんが、それほど多く三浦市から教員をお辞めいただくを得ない状況ではなく、公務員は基本的に定数が減少したときに解雇することができる取り決めがありますが、そのような事態にはならないのではないかという程度のシュミュレーションしかしていません。場合によっては余剰となった教員の方には、横須賀市、逗子市、葉山町にある学校に配置転換することになると思っています。特に正規雇用の公務員を解雇することは、相当なことであり、ないと思います。

◇委員 そもそも、三浦市学校教育ビジョンを立ち上げた目的は子どもたちのためですが、国や文部科学省もしくは神奈川県教育委員会などからの指導があつて始まったことなんでしょうか。

もう一点、前回の地域協議会で座長の発言で気が付いたことですが、校長会での業務の分担が学校の数によって増加するお話がありましたよね。小学校の数が減ったことによって、例えば市内の小学校が3校になると、それぞれの小学校の校長先生の負担が増えますよね。そこで思ったのがPTAの会長を長年やっている、いろいろと関わっていて、そうすると市PTA連合会の当番の回数が非常に回ってきます。実際に市P連があるのは良いか、県P連に所属していることは良いのかどうか、7、8年前に話がありました。脱退してしまうのは簡単だけれども、県P、市P同士繋がっている方が子どもたちのためにとっていいということになりました。

三浦市の代表で行ったときに、例えば茅ヶ崎市で会長を引き受けた人が当番は再来年

のはずだったのに急に回ってきたという発言がありました。つまり、今でさえ会長、会計、三役を引き受けてもらうのに大変なのに、統合が PTA にとって子どもの人数が増えるから良いと PTA の方たちにされたと思います。しかし PTA の人数も増えるからといって、会長などの役回りを引き受けてくれる人は変化しないと思います。このようなことから、小学校が統合により一度で3校になるのは疑問が残ります。今後、会長（役職）をやる人のことを考えると、負担が大きくなると心配しています。

もう一つですが、学校適正化に関するアンケートはどなたが作りましたか。

◇事務局 三浦市教育委員会です。

◇委員 言い方が悪いですけど、そのアンケートを始めてみたときに正直、この程度なのか。悪意があると思いました。なぜだと思います。答えに理由を書かないからです。アンケートの取り方も偏ったものだと思いますね。アンケートの作り方も良くなかったと思います。

◇事務局 まず、一点目の文部科学省、神奈川県などの指導はありません。もちろん、国は適正規模の基準は示していますが、少なくともここ4年間、三浦市の小学校に対して小規模化しすぎているという話を、神奈川県も含めもらったことは一切ありません。過去にあったということも引き継いでおりません。

二点目として先程、校長先生などの管理職のお話で PTA の役員の方の負担は結果として、大きくなるのではないかというご指摘がありました。1人当たりの負担、1年間の負担は同じです。しかし8校でローテーションさせるのと3校でローテーションを回すのでは、1年あたりに必要な労力は同じですから、当然、負担は大きくなるのではないかということを今、改めて気が付いたといったら語弊がありますが思い出しました。

三点目の過去のアンケートについてのご指摘だと思います。そのように捉えかねられないアンケートであったというご意見として受け止めさせていただきます。

◇座長 他にこの件に関して何かありますか。回答になっていたか分かりませんが。

◇委員 統合になった場合の施設の利用について、単純に使わなくなった施設は老朽化の進行が速いです。幼稚園の方から聞いた話ですが、以前、城山にあった三浦市の体育館について、例えば、ある幼稚園は昔、その体育館で鼓笛の練習ができていましたが、なくなってしまい、中学校の体育館を借りることになりました。しかし、近所の住民から騒がしいと苦情が寄せられました。このことが契機で鼓笛の練習にもかかわらず音を出せずに、フォーメーションだけの練習になってしまいました。仕方がないので潮風アリーナを使うことになったそうです。よって、一度に統合された場合に使用されなくなった施設をしっかりと維持できるか疑問です。前例として旧三崎中学校の使われ方も良いとは言えません。

◇事務局 統合後の施設の使い方については繰り返しになりますが、検討していきます。

往々にして、管理は難しいだろうというご意見だと思います。確かに今までこのような管理をした実績がないため、地域に学校がなくなることで今後、その施設をどうするかということが地域にとって問題であるということは地域協議会でも述べられています。本日、政策課長も出席しておりますが、三浦市として十分に考え、使用する方向を定めて管理していくこととなります。

◇委員 そのことですが、残る施設をどうするかの前段階として、施設を残さなくてはいけないという考え方がないといけないと思います。それと、先程も発言がありましたが、もし統合されたとして、残された施設の避難所としての問題が出てきて、すぐに廃止することはないとのことでした。その点についてはこれからの問題というけれども、そのような議論がまだされていません。さらに、今年は新型コロナウイルスの影響で避難所の対応が大幅に変わってきています。そういった面で、三浦市の組織内で横の繋がりを活かし、話がされていない、大まかな方向性が示されていないというのは遅いと思います。

◇事務局 まず、施設を今後も地域のために残すということ前提として、考えるべきだというお話と受け止めました。それについては、地域協議会のご意見として今後の検討に活かしていくことになるかと思えます。

次に防災の施設として指定避難所についてです。こちらは三浦市学校教育ビジョンを立ち上げて、当時の三浦市教育委員会が作成したときに、防災担当に今後も該当施設を避難所として、活用していくことが必要か否かの検討をしてもらっているところです。防災担当が今、検討してくれていると思いますが、結論は出るところまでは至っていません。

◇座長 その他に、ご意見、ご質問ございますか。

◇座長 先程、お話にあったことを基本的には回答されるということですのでよろしいでしょうか。

◇事務局 こちらの提案書は回答まで求められておりません。

◇座長 分かりました。三浦まちづくりの会の方々はそのように考えているということですね。

◇事務局 提案書について、1ページ目の下部に81名から44名という数値が出ています。この具体的な根拠については分かっておりません。81名、44名というのは、おそらく現状のクラス数及び管理職、養護教諭の数くらいと思われます。実際には小学校も中学校もクラス数及び管理職、養護教諭、また、担任外のTT、英語専科、加配による教諭も配置されています。44名という数値に関しては、三浦まちづくりの会の方々も44名と81名では差が大きく、現時点で算入するか難しいことも理解されていると思いま

す。詳細は不明です。

◇座長 その他、ございますか。

◇委員 端的に申し上げます。教育に関して、委員も含めた影響がある当事者にアンケートを取るのが理にかなっていると思います。そして、現職の職員の方が現状の教育についてどう思っているかということも発信した方が、より理解が得られるものになるのではないかと思います。

地域コミュニティというものに関しては区長をはじめ、地域の大人たちの方が避難所を含めて非常に重要であると思います。そこに対してもアンケートというか資料を配布する必要があるのではないかと思います。

委員がおっしゃっていた、使用されなくなった学校施設の利活用のビジョンについて、旧三崎中学校を例に挙げていましたが、確かに言われる部分もあると思います。実際に旧三崎高校の跡地にはベイシア、消防署ができて雇用が発生し、地域コミュニティの新しい場所になり、個人的には良かったと思います。一概に施設を残し続けるというのは耐震などを含めて限界が生じてくると思いますので、利活用のビジョンは必要です。

実際、統廃合されて学校が少なくなり、例えば、難題ですが校舎を新しくするというビジョンがあればコンパクトにして施設が新しくなるということに関しては希望が持てる事案になるのではないかと思います。市長を含め、もし可能であれば明るい材料として発信していただければ良いかなと思います。

最後に広報に関しては、今のままでは浸透するのは厳しいと思います。高齢の方は新聞等がメインの情報になりますし、若い世代は新聞をほとんど読まないため、携帯、スマートフォンを中心としたネットニュースで情報を得ている部分があります。広報力といったらいいでしょうか。三浦市のホームページ自体も粗雑というか、クリックしたら大量の文字が表示され、見る人の立場に立っていません。横須賀市と比べても情報の発信という面で非常に遅れている部分があります。例えば説明会を動画に残し、編集も加えて、若い方がこのプロジェクトはどのように考えられているか動画を通して分かるという方法も一つの手だと思います。

◇事務局 広報につきましては、改めて検討したいと思います。

施設利用のビジョンについてはある程度決まらなれないとできない部分もございます。例えばこの地域協議会の中で、地域協議会の意見として統廃合後の施設については地域利用を中心に検討を加えるべきというご意見をいただくのならば、それを真摯に受け止めて対応していきたいと考えています。

施設の管理は市民の方々が適正だと思われるように、管理ができればと思います。学校の財産として所有するかも今後の話になると思います。私の立場で今後どうするか、確実に今、申し上げることができず申し訳ございません。

◇座長 まだまだ皆さんのご意見が出尽くしていないとは思いますが、時間の都合もございませぬ。この程度にさせていただいてよろしいですか。

では、続きまして事務連絡です。

◇事務局 次回の地域協議会は12月21日(月)午後7時00分から午後8時00分まで1時間程度で開催予定です。場所は同様に三浦市市民交流センター研修室です。よろしくお願いいたします。

◇座長 この件につきましてご質問・ご意見がございますか。

(特に発言なし)

それでは以上で第3回 三浦市学校教育ビジョン地域協議会(三崎地区)を閉会致します。お忙しい中、ありがとうございました。

◇ 20時04分 閉会 ◇